

「第21回 大阪市手をつなぐ育成会大会が 開催されました」

港第二育成園支部 石田 裕子

少し肌寒い11月12日。大阪城をすぐ隣に美しく眺められるKKRホテル大阪において、第21回大阪市手をつなぐ育成会大会が開催されました。

式典では大阪市福祉局 局長 坂田洋一様をはじめ8名の来賓の皆様にご臨席賜り、祝辞や激励のお言葉をいただきました。

また、講師としてご出席いただいた全国手をつなぐ育成会連合会の久保厚子顧問が、この度の秋の叙勲で、旭日小綬章を受賞されたとご紹介がありました。誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。

【大阪市手をつなぐ育成会大会/式典】



そして、大会の前半は全国手をつなぐ育成会連合会の久保厚子顧問より、中央情勢報告についてわかりやすくお話いただきました。

続いて、基調講演は、大阪市生野区役所 松藤栄治課長から、「成年後見の社会化について」をテーマに成年後見の現状について様々なお話がありました。これからは育成会においても会員による“市民後見人活動”や法人の施設・事業所による“法人後見の取組”など、活発にしていきたいと話されていました。

大会の締めくくりとして、今回の大会テーマである「将来の暮らしをデザインする」～権利擁護の現状と課題～についてシンポジウムが行われました。

当会の港育成園 藤原勇治管理者がコーディネーターとなり、シンポジストには、日頃から市民後見人制度に携わっておられる、大阪公立大学大学院講師の鶴浦直子氏。また、家族の立場を代表して、会員のふりーすぺーすSUN支部から藤原鈴子氏。そして、久保顧問と松藤課長にも再び登壇していただきました。

現在の成年後見人制度の問題点については、①財産管理のみで身上介護が不十分である。②後見人に障がい理解と福祉の知識がない。③後見人は変更できない。④一度使うと一生使わなければならない。⑤報酬月額

2万円は高い。⑥ピンポイントで使えない。など、いろいろあります。

また、将来の暮らしをデザインするために必要なこととしては、①本人にあった暮らしを考える。②本人が何をしたいか寄り添って聞きとる。③本人に経験をさせておく。④いろいろな人とつながりを持っておく。⑤“チーム支援”が必要である。身近な親族・福祉・医療・地域の関係者と後見人等が“チーム”となって本人の権利を守る。

本当にこのような手厚いチームでわが子を支えてもらえたら心強い！理想ですね。その理想を実現させる希望の光として育成会があります。“親のいない当事者に寄り添い、求めていることを理解し、年を重ねながら地域で暮らしていく仲間を支える”それが育成会であると思っています。

国の会議に参加して、私たちの思いを届けていただいている久保顧問は力強く言われました。「あと5年待ってください！民法も変わり“使える”成年後見人制度になります！」と、そして私は「はい、5年待ちます！」と心の中で叫びました。でも、もう少し早く実現すると嬉しいです。

【シンポジウム/「将来の暮らしをデザインする」 ～権利擁護の現状と課題～】



啓発活動を行いました

理事長 長谷川 美智代

11月28日(火)と29日(水)の2日間、大阪市立豊崎本庄小学校で啓発活動を行いました。

ご依頼の内容は、発達障がいに関する出前授業で、「全学年の発達障がいに関する理解を深めるとともに、友達への理解を深め、仲間づくりにつなげることを目的とする」とのことでした。

事前に教頭先生と打ち合わせをして、各学年で配慮することを聞き取り、啓発キャラバン隊YO～おこしのメンバーでプログラムの内容を考えて本番に臨みました。

1日目は、1年生～3年生に向けての授業だったの